様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月 ２０ 日現在

機関番号：１４５０３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2021
課題番号：１８Ｋ０２７９０

研究課題名（和文）知的障害特別支援学校高等部における行動問題への包括的・階層的介入モデルの開発

研究課題名（英文）Development of the comprehensive and hierarchical intervention model for behavior problems in the special high school for intellectual disabilities

研究代表者
井澤　信三（ISAWA, SHINZO）

兵庫教育大学・学校教育研究科・教授

研究者番号：５０３２４９５０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,400,000円

研究成果の概要（和文）：①「知的障害特別支援学校高等部における「軽度知的障害及び発達障害生徒への生徒指導に関する文献検討」「性教育に関する文献検討」「性的な問題行動へのアセスメントと介入に関する文献検討」を実施した。　②知的障害特別支援学校高等部における性教育に関する面接調査を担当教員を対象に、また、スクールカウンセラーを対象に、性的な課題や不登校に関する相談支援事例を収集した。　③某知的障害特別支援学校高等部におけるにした不登校予防のためのPBSをベースとしたクラスワイド介入を行い、データによる効果を示した。上記を踏まえて、特別支援学校高等部における不登校に対する階層的介入（試案）を作成することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
①知的障害特別支援学校高等部における性的な課題の実際、及び性教育の実際を担当教員への面接調査を行い、授業における性教育及び日常的なかかわりによる１次的支援、性的なトラブルが起きた場合への２次的支援に関する知見を得ることができた。　②知的障害特別支援学校高等部における不登校への支援について、基本的な考え方、支援の目標を明示し、段階的な支援の概要を示した。それを踏まえて、「未然防止（１次的）」と「早期支援（２次的）」、長期化への対応として「学校復帰作業（３次的）」といった「不登校対応マニュアル（試案）」を作成した。

研究成果の概要（英文）：(1) We reviewed “guidance and counseling”, “sex education” and “assessment and intervention in sexual behavioral problems” for students with mild intellectual disability and developmental disorders at special high school for intellectual disability and got those findings. (2) We conducted the interview survey on sex education for teachers in charge and collected consultation support cases regarding sexual behavioral problems and school refusal for school counselors at special high school for Intellectual disabilities. (3) We conducted PBS-based class-wide intervention to prevent school refusal at special high school for intellectual disabilities and showed the effect of the data. Based on the above, we were able to create “the hierarchical intervention (draft) for school refusal in the special high school for intellectual disabilities”.

研究分野：特別支援教育心理学

キーワード：知的障害　発達障害　特別支援学校高等部　行動問題　生徒指導

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

知的障害特別支援学校高等部の抱える課題として、近年、その生徒数の増加が著しく、その中でも軽度の知的障害の生徒が増え、高等部全体の中で占めるその割合も多くなってきている（井上, 2012）。また、知的障害のある自閉症（自閉的傾向を含む）が 16,734 人（31.3%）、高機能自閉症またはアスペルガー障害が 1,240 人（2.3%）、ADHD（Attention-deficit/hyperactivity disorder）が 1,665 人（3.1%）となっており、発達障害等の合計数は 19,639 人（36.8%）となっている（井上, 2012）。同様に、熊地・佐藤・齊藤・武田（2012）による実態調査では、知的障害を主とする特別支援学校における知的発達に遅れがない発達障害のある児童生徒は 45%の学校で在籍し、その半数以上が ASD（Autism Spectrum Disorder）であったことから、知的障害特別支援学校にも発達障害のある生徒も一定数、在籍している現状がうかがえる。

このような現状において、mID（mild Intellectual Disability）、または ASD、ADHD 等のある生徒の生徒指導上の課題としては、「不登校」が 178 件が最も多く、「不健全な異性との交遊」が 153 件、「精神症状」が 130 件、「喫煙」が 83 件、「学校内外での暴力」が 74 件、「万引き」が 70 件と続いている。その他の回答には携帯電話のトラブルに関連する記述が多かった（特総研, 2012）。知的障害特別支援学校高等部では、mID 、ASD、ADHD といった特性を有する生徒における行動問題（いわゆる生徒指導上の案件も含む）へのより適切な支援・対応は喫緊の課題であると考えられる。

一方、知的障害の有無にかかわらず、行動問題の査定とその介入において、「FBA（Functional Behavior Assessment）に基づいた行動的介入」がエビデンスに基づいた有効なアプローチとされている（井澤, 2016）。Heyvaert, Saenen, Campbell, Maes, & Onghena (2014) は、358 個の行動問題への介入研究の系統的レビューにより、①行動的介入は、行動問題の種類にかかわらず平均以上の効果を示した。②介入に先立ち機能分析を実施している介入は、実施していない介入よりも有意に問題行動を減少させている。③年々、嫌悪的な介入（例：罰や過剰修正法など）は減ってきており、特に、先行子操作やソーシャルストーリーズ等を適用している研究が増えてきていることを指摘している。

このFBA に基づく行動的介入は、前述したような対象が示す行動問題にも効果を示すと考えられるが、知的障害特別支援学校高等部における行動的介入では、学校でのアセスメントのあり方、または適用しやすい介入方法・内容を探り出していく必要がある。

２．研究の目的

本研究の目的は、知的障害特別支援学校高等部における行動問題への包括性・階層性のある介入プログラムのモデルの開発を試みることである。特に、ASD、ADHD、mID 等のある生徒が示す行動問題に対するFBA に基づく行動的介入における独自性と創造性について、以下の2つを挙げることができる。

第１に、知的障害特別支援学校高等部における多様な行動問題の内容・種類、及びそれに対する効果的なアプローチの整理・分析に基づく包括的モデルに焦点を当てている点である。第２に、知的障害特別支援学校高等部における行動問題に対し、予防的介入（一次的）、問題解決的介入（二次的）／緊急的介入（三次的）といった階層的モデルに焦点を当てている点である。

３．研究の方法

研究(1)：知的障害特別支援学校高等部における生徒が示す行動問題に関するレビュー研究：ASD、ADHD、mID等のある生徒の行動問題への国内外の介入研究を収集する。日本における学術雑誌、大学研究紀要、教育委員会・学校等により報告書等、学術図書など、幅広く収集を行い、整理・分析を行う。

研究(2)：国外の特別支援学校等における学校全体介入に関する情報収集：近年、本邦でも紹介されてきているSWPBS（School Wide Positive Behavior Support）を取り入れている米国における先進的取組を視察することにより、階層性モデルを開発する際の基本資料を収集する。

研究(3-1)：知的障害特別支援学校高等部における行動問題の相談事例に関する調査：知的障害特別支援学校高等部における行動問題を呈する事例について、対象事例の実態（知的発達レベル、行動特性等）、行動問題の実態（行動問題の内容・種類等）、及び行動問題へのアプローチ（予防的、問題解決的、緊急的な介入の具体的内容）について、キャンパスカウンセラーへのインタビュー調査を実施する。

研究(3-2)：知的障害特別支援学校高等部における性的な課題と性教育に関する調査②：知的障害特別支援学校高等部における特別支援学校における生徒の性的な課題の現状、及び実際の取組等について担当教員へのインタビュー調査を実施する。

研究(4)：知的障害特別支援学校高等部における不登校への段階的介入プログラムの作成：知的障害特別支援学校高等部における不登校予防支援によるクラスワイド介入を実施し、それを踏まえた不登校支援への階層的介入（試案）を作成する。

４．研究成果

研究(1)：知的障害特別支援学校高等部におけるASD、ADHD、mID等のある生徒が示す行動問題に関するレビュー研究

レビュー研究①：知的障害特別支援学校高等部における軽度知的障害及び発達障害の生徒への「生徒指導」に関する文献検討（兵庫教育大学研究紀要, 54, 37-42.）

知的障害特別支援学校高等部における軽度知的障害及び発達障害のある生徒への「生徒指導」に関する先行研究を概観することを目的とする。まず、知的障害特別支援学校高等部における軽度知的障害及び発達障害のある生徒の在籍状況、またそのような障害のある生徒への指導・支援に求められるニーズ、特に「生徒指導」に関連する現状について整理した。その結果は、そのような障害のある生徒は増加傾向にあり、それに伴い「生徒指導」的な指導・支援内容に対する必要性の高まりが示唆された。次に、軽度知的障害及び発達障害のある生徒の指導において、「不登校」と「性的な問題」に関する先行研究を取り上げ、その指導・支援ニーズの整理と、どのような実際的な指導・支援が求められているかを整理した。

レビュー研究②：知的障害特別支援学校高等部における軽度知的障害及び発達障害生徒への性教育に関する文献検討（兵庫教育大学研究紀要, 56, 71-81.）

本研究は、知的障害特別支援学校高等部における軽度知的障害及び発達障害生徒における性教育のあり方を考えるための文献検討を行った。「通常の小・中・高等学校、特別支援学校における性教育の現状と課題」、及び「知的障害特別支援学校高等部における性教育のカリキュラム及び授業の実際」に関連する先行研究のレビューを行い、それらの現状と課題について検討した。結果、通常の学校及び特別支援学校における性教育では、特

に、平成29年・30年告示の学習指導要領に示された学習内容について、教科等の連携、指導の方法の検討など、学校・教員側の準備と体制の重要性が示唆された。また、知的障害特別支援学校高等部では、その発達の程度に応じた指導内容の選定と指導の方法の検討、特にICT等の活用が求められていることを指摘した。

レビュー研究③：性的課題を有する軽度知的障害及び発達障害のある生徒への介入研究に関する文献検討

介入方法の選択は対象者が示す性的問題行動の頻度や度合い、機能によって慎重に決定される必要がある。特に、問題行動の妨害のように嫌悪的な刺激を対象者に提示しなければならない介入を導入する前には、代替行動の確立など、より嫌悪的刺激の少ない介入を実施する計画を立てるべきであると考えられる。例えば、Dozier et al. (2011) はすでに複数の介入を受けても効果を示さなかった自閉症スペクトラム者に対して問題行動の妨害を用いた介入を実施した。介入が対象者の性的問題行動の減少に有効であるかどうかを常に評価することが必要であると考えられる。

研究(2)：国外の特別支援学校等における学校全体介入に関する情報収集

調査①：米国オハイオ州コロンバスへの視察（2019年2月実施）：Haugland Learning Center：チャータースクール。就学前から12年生（～18歳）で、公立の学校では指導の難しい発達障害等のある児童生徒が通学している。12歳以降は能力別でクラス編成を行う。年齢があがるにつれ、セルフモニタリングの指導を重視している。学校全体で１次的支援としてトークンエコノミーシステムを実施している。また、子どものテストの結果、及び毎日の標的行動等の評価がデータ化され、そのデータ管理・分析を仕事とする役割の人がいる。他にも、Winterset elementary schoolとHamilton STEM Academyを視察できた。

調査② The National Autistic Society（NAS：英国自閉症協会）のオンラインによる講義及びディスカッション（2021年2月・オンラインによる実施）（有料内容の保護のため掲載省略）

研究(3-1)： 特別支援学校高等部における行動問題のある相談事例に関するキャンパスカウンセラーへのインタビュー調査

知的障害特別支援学校高等部における代表的な事例、事例A（暴言・暴力）、事例B（不登校）、事例C（性的な課題）における、対象事例の実態、行動問題の実態、及び行動問題へのアプローチにインタビューした。ポイントとしては、①本人の情報や支援方針や内容を三者（本人、保護者及び担任）で共有することにより、対象生徒に関係者が行動問題の機能に応じた一貫した支援を実行できたことが成果を生み出せること、②集団参加が困難であった実態を踏まえ、本人との話し合いながら、授業における目標設定をスモールステップで行っていたこと、また対象生徒の興味関心が高い部活動に参加する機会を保障することにより、授業に参加する行動や学校生活への参加度が高まったこと、③対象となる男子生徒に対して、対象生徒に対する制限や管理等により、予防的に問題を生じさせない対応だけではなく、女子生徒との具体的なかかわりスキルを教えていった結果、行動問題は減少したが、女性とのかかわりに関する課題は依然としてある。日々のエピソードをもとに、相手の意図や感情理解を促す支援を行っていく中で、自身の課題として捉えることを目標に対象生徒自身の問題意識を高めていくことが求められる。

研究(3-2)：知的障害特別支援学校高等部における性教育に関する調査

不適切な場面での自慰行為、男女の付き合い、その延長の性的な行為、その結果としての妊娠・結婚等の検討すべき事柄が実際的に生じている現状を踏まえ、授業における性教育と日常の中での性教育にわけることができる。

① 授業の中での性教育：

(1) 授業で大切にしているメッセージ：「命を大切に、自分を大切に」と「セックスには妊娠という責任がともなうこと」といった意識を持つことを重視している。もう一つは「被害を受けない」、たとえば「Noと言えること」を大切にしている。

(2) 知的障害のある生徒への授業での工夫：具体的であること（例：コンドームの付け方、避妊等）、馴染みのある日常的に使用する言葉を使うこと、また、「相手の気持ちの学習」や「プライベートゾーンの学習」には、替え歌などを作り、定着できるように促すといったことが挙げられた。その他、「繰り返し」「実話（実感を持たせておく）」「ロールプレイ（知識と行動をつなぐため）」等であった。

(3) 男女で一緒の授業形態と男女別々の授業形態の双方のメリット：お互いの考え方を知ることができるというメリットと、男女別であると気兼ねなく話し合いができるというメリットがある。

② 日常の中での性教育：

(1) １次的介入：休み時間などの日常的な関わりの中で、性的な話題を扱うことも、生徒によっては行っている。相手を思いやる心を育てる。たとえば、教員がわざと将棋を負けて、イライラしている状態を示し「暴れていい？」と尋ねるような練習である。また、教員がモデルとなるように、生徒のようにイライラして、自分でコントロールしている様子を示している。さらに、教員「できている自分を見せる」ではなく、「間違っていんだよ」といったことを伝えるようにしている。

(2) ２次的介入：何かトラブルがあった個別の指導で「先手先手を打つ」ことが大切であり、出来事とその時の思いや気持ち、考えを丁寧に粘り強く話し合うことが求められる。また、事実を科学的に示す（例：性病の写真）。そして、今後どうしていくかを考えさせる。「怒鳴らないけれども譲らない」といった態度である。長期的なスパンで見ていくことが必要である。

研究(4)：知的障害特別支援学校高等部における不登校への包括的・段階的介入プログラムの作成

まず、某特別支援学校高等部のクラスにおいて、ポジティブな行動支援（PBS/PBIS）をベースにした不登校予防のためのクラスワイド介入を行い、データによる効果を示すことができた。さらに、包括的、段階的な不登校支援をもとに、特別支援学校高等部における特徴に対応した、「不登校対応マニュアル」を試案として作成した。①不登校支援における基本的な考え方、目標を示し、包括的、段階的な支援の概要を示した。②不登校についての基本的な知識についてまとめ、特別支援学校の状況等について。③学校における不登校支援について、「未然防止（１次的介入）」「早期支援（２次的介入）」、長期化への対応として「学校復帰作業（３次的介入）」について示した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計16件（うち査読付論文　9件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　9件）

１．著者名 YAMAMOTO, S. and ISAWA, S.	４．巻 53(3)
２．論文標題 Effects of Textual Prompts and Feedback on Social Niceties of Adolescents with Autism Spectrum Disorder in a Simulated Workplace	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Journal of Applied Behavior Analysis	６．最初と最後の頁 1404-1418
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/jaba.667	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 西田裕明・山本真也・井澤信三	４．巻 58(3)
２．論文標題 知的能力障害を併せ持つ自閉スペクトラム症の生徒の掃除スキルにおける行動連鎖の獲得と般化についての検討－アニメーションセルフモデリングを用いて－	５．発行年 2020年
３．雑誌名 特殊教育学研究	６．最初と最後の頁 187-199
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 山本多佳実・井澤信三	４．巻 58(4)
２．論文標題 自閉スペクトラム症のある青年における「悪質商法の勧誘を断る行動」の獲得と般化の検討	５．発行年 2020年
３．雑誌名 特殊教育学研究	６．最初と最後の頁 269-282
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 原康行・井澤信三	４．巻 22
２．論文標題 保育所における支援会議を通した内部コンサルタント育成方法の検討－発話内容・内省、保育所全体の意識と行動の変容に注目して－	５．発行年 2021年
３．雑誌名 学校教育実践学論集（兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科）	６．最初と最後の頁 69-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 井澤信三	4．巻 793
2．論文標題 学校教育における発達障害支援のこれから	5．発行年 2019年
3．雑誌名 教育と医学（慶應義塾大学出版会）	6．最初と最後の頁 510-516
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 岡村章司・井澤信三	4．巻 55
2．論文標題 家庭場面における行動問題を示す幼児児童の行動支援計画に関する教師研修の効果検討－保護者との協働による作成を仮定して－	5．発行年 2019年
3．雑誌名 兵庫教育大学研究紀要	6．最初と最後の頁 57-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 山本多佳実・井澤信三	4．巻 32
2．論文標題 視覚障害と重度知的能力障害を伴う自閉スペクトラム症者におけるiPodの操作行動の獲得と般化の検討	5．発行年 2019年
3．雑誌名 学校教育学研究（兵庫教育大学）	6．最初と最後の頁 161-165
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 山本真也・井澤信三	4．巻 32
2．論文標題 自閉症スペクトラム障害児におけるなぞなぞ正答行動の獲得を促進する手続きの検討	5．発行年 2019年
3．雑誌名 学校教育学研究（兵庫教育大学）	6．最初と最後の頁 133-141
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Yamamoto Shinya、Isawa Shinzo	4．巻 35
2．論文標題 Using a script procedure without fading to increase novel behavior in a conversation between children with autism	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Behavioral Interventions	6．最初と最後の頁 192-199
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/bin.1699	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 YAMAMOTO, S. and ISAWA, S.	4．巻 early View
2．論文標題 Effects of Textual Prompts and Feedback on Social Niceties of Adolescents with Autism Spectrum Disorder in a Simulated Workplace.	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Journal of Applied Behavior Analysis	6．最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/jaba.667	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 岡村章司・井澤信三・宇野宏幸	4．巻 57
2．論文標題 自閉スペクトラム症児における行動問題と保護者のニーズ－保護者のストレス対処力の影響を含めて－	5．発行年 2019年
3．雑誌名 特殊教育学研究	6．最初と最後の頁 149-158
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 井澤信三・大江孝則・原康行・谷川毅・松村宏記・山本真也	4．巻 56
2．論文標題 知的障害特別支援学校高等部における軽度知的障害及び発達障害生徒への性教育に関する文献検討	5．発行年 2020年
3．雑誌名 兵庫教育大学研究紀要	6．最初と最後の頁 71-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 井澤信三	4．巻 21
2．論文標題 障害のある人における就労支援の動向	5．発行年 2020年
3．雑誌名 兵庫県人権啓発協会・研究紀要第二十一輯	6．最初と最後の頁 47-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 YAMAMOTO, S. and ISAWA, S.	4．巻 7
2．論文標題 Teaching a Child with Autism to Respond to the Question, " What Else? ".	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Journal of Special Education Research	6．最初と最後の頁 39-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.6033/specialeducation.7.39	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 平生尚之・稲葉綾乃・井澤信三	4．巻 44
2．論文標題 自閉症スペクトラム障害特性を背景とするひきこもり状態にある人の家族支援－発達障害者支援センターにおけるCRAFT適用の検討－	5．発行年 2018年
3．雑誌名 認知行動療法研究	6．最初と最後の頁 147-158
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24468/jjbct.16-184	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 井澤信三・原康行・永井孝行・西田裕明・山本真也・岡村章司	4．巻 54
2．論文標題 知的障害特別支援学校高等部における軽度知的障害及び発達障害生徒への「生徒指導」に関する文献検討	5．発行年 2019年
3．雑誌名 兵庫教育大学研究紀要	6．最初と最後の頁 37-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計13件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 井澤信三
2．発表標題 知的障害者の思考力・判断力・表現力を形成する教科別の指導－理科・社会科の実践を通して－（指定討論）
3．学会等名 日本特殊教育学会第58回年次大会・自主シンポジウム
4．発表年 2020年

1．発表者名 井澤信三
2．発表標題 職業リハビリテーションを取り巻く認知行動療法の実践(5)－発達障害のある者への支援を考える－（指定討論）
3．学会等名 日本認知・行動療法学会第46回年次大会・自主シンポジウム
4．発表年 2020年

1．発表者名 井澤信三
2．発表標題 多様な対象に対して行動コンサルテーションをどう進めるのか（指定討論）
3．学会等名 日本LD学会第29回年次大会・自主シンポジウム
4．発表年 2020年

1．発表者名 井澤信三
2．発表標題 マイルストーンとしての『行動分析学事典』言語共同体としての行動分析学（話題提供）
3．学会等名 日本行動分析学会第37回年次大会
4．発表年 2019年

１．発表者名 井澤信三
２．発表標題 知的障害者の自己決定の選択行為形成に向けた学習支援Ⅲ－住まいの場の選択を題材として－（指定討論）
３．学会等名 日本特殊教育学会第57回年次大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 西田裕明・山本真也・井澤信三
２．発表標題 自閉スペクトラム症児へのアニメーションセルフモデリングを用いた電話の応対スキルの指導研究
３．学会等名 日本特殊教育学会第57回年次大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 平本厚美・南川聡美・井澤信三
２．発表標題 自閉症スペクトラム障害を伴う児童の強迫的な確認行動へのScaling questionを用いた介入の効果についての検討
３．学会等名 日本認知・行動療法学会第45回年次大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 市川哲・井澤信三
２．発表標題 自閉スペクトラム症傾向が高い大学生の英語学力に関する研究
３．学会等名 日本学校カウンセリング学会第35回大会・研修会
４．発表年 2020年

１．発表者名 井澤信三
２．発表標題 特別支援教育の立場から（ストレスマネジメント教育の今後を展望する－包括的ストレスマネジメント教育へのシフト－）
３．学会等名 日本ストレスマネジメント学会第17回大会・シンポジウム
４．発表年 2018年

１．発表者名 井澤信三
２．発表標題 知的障害特別支援学校におけるSST実践の現状と課題
３．学会等名 日本特殊教育学会第56回年次大会・自主シンポジウム（“ちゃんと人とつきあいたい”知的障害のある生徒のための学校教育SSTプログラム－知的障害の特性にあった使える支援ツール＆活用法の検討－）
４．発表年 2018年

１．発表者名 西田裕明・山本真也・井澤信三
２．発表標題 自閉スペクトラム症児へのアニメーションセルフモデリングを用いた家庭生活スキルの指導研究
３．学会等名 日本特殊教育学会第56回年次大会・ポスター発表
４．発表年 2018年

１．発表者名 原康行・井澤信三
２．発表標題 保育所内の主体的な問題解決行動を維持させる方略の検討外部支援者の介入頻度を低減する手続きの適用
３．学会等名 日本特殊教育学会第56回年次大会・ポスター発表
４．発表年 2018年

１．発表者名 山本真也・井澤信三
２．発表標題 自閉症スペクトラム障害児におけるじゃんけん場面の選択反応の変動性に対するLag 1スケジュールの効果の検討
３．学会等名 日本特殊教育学会第56回年次大会・ポスター発表
４．発表年 2018年

〔図書〕　計3件

１．著者名 井澤信三	４．発行年 2020年
２．出版社 金子書房	５．総ページ数 156
３．書名 多様性をふまえた教育のあり方・授業の進め方の最前線	

１．著者名 一般社団法人日本行動分析学会（編纂委員）	４．発行年 2019年
２．出版社 丸善出版	５．総ページ数 768
３．書名 行動分析学事典	

１．著者名 井澤信三	４．発行年 2019年
２．出版社 福村出版	５．総ページ数 144
３．書名 特別支援教育の新しいステージ：５つのＩで始まる知的障害児教育の実践・研究（分担執筆）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	岡村　章司 (OKAMURA SHOJI) (00610346)	兵庫教育大学・学校教育研究科・教授 (14503)	文献検討、国外視察、スクールカウンセラーによる相談事例の収集等

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関